あなたの「いつも」を支えて50年



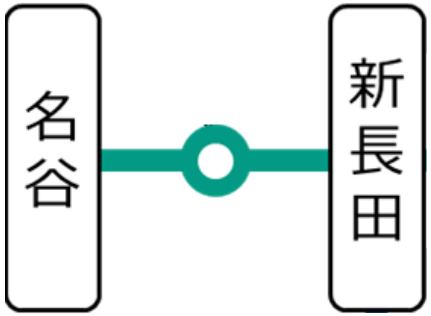
2027年、神戸市営地下鉄は開業50周年を迎えます。
神戸のまちの発展とともに、みなさまの移動を
支え続けてきた地下鉄についてご紹介します。

神戸市営地下鉄のこれまで

神戸市営地下鉄は、ニュータウン開発など神戸のまちの発展とともに市民の足を支えるべく、路線を延伸してきました。

（１）開業

1977年3月13日、須磨ニュータウンへの
アクセス路線として、名谷～新長田駅間が開業。
神戸のまちに地下鉄が誕生しました。





開業時の妙法寺駅と地下鉄車両



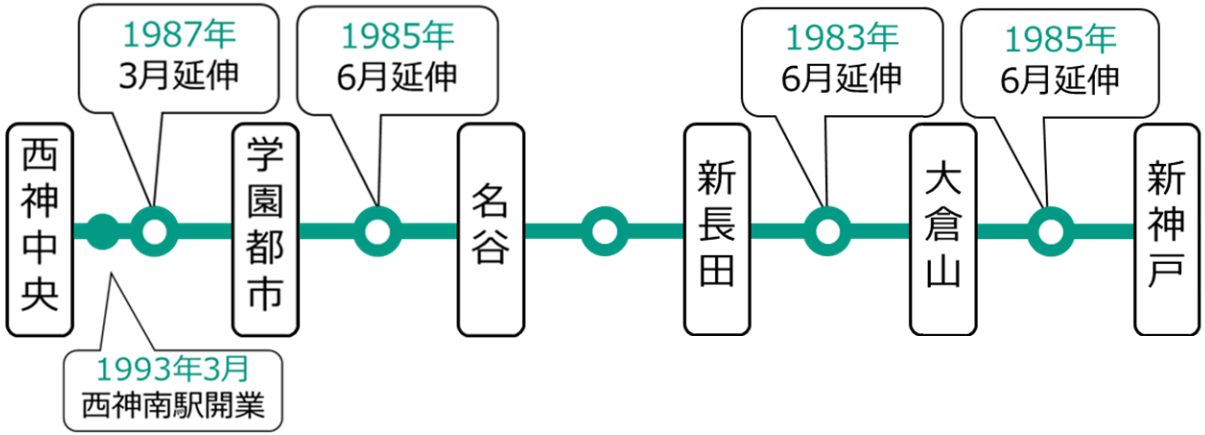
開業時の名谷駅周辺



開業初日の記念電車

（２）市街地への延伸とニュータウン開発

ニュータウンと市街地を結ぶため、東部へ延伸し新長田～大倉山～新神戸駅間が開業しました。
また、西神ニュータウンの造成に伴い、名谷～学園都市～西神中央駅と延伸し西神・山手線が全線開通しました。





西神・山手線全線開通式典



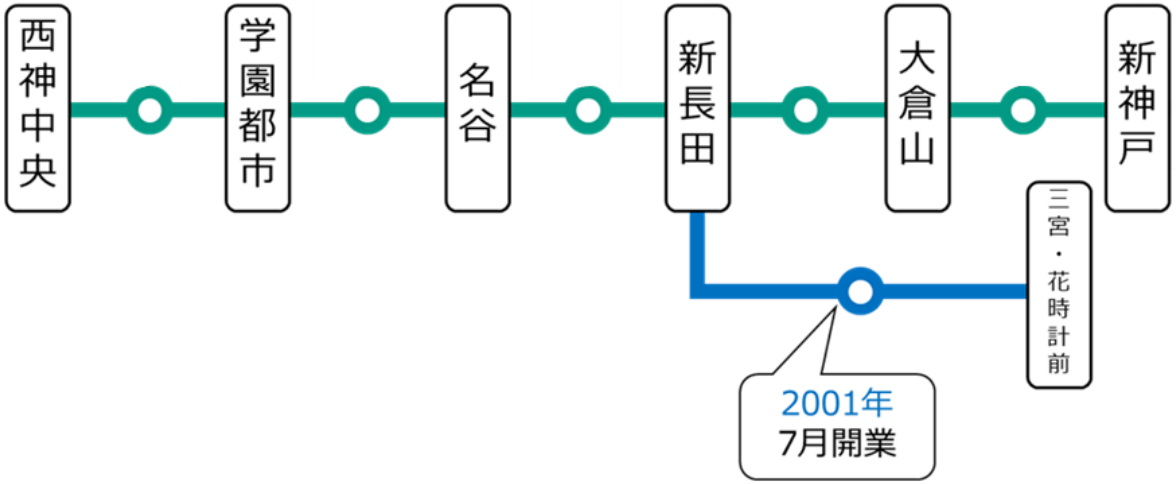
建設中の学園都市駅付近



西神南駅開業式典

（３）海岸線の開業

2001年7月7日、兵庫・長田区南部地域の活性化を目的として新長田～三宮・花時計前駅間に海岸線が開業しました。





開通前に行われたレール締結式



搬入されたばかりの海岸線5000形車両



海岸線開業式典

（４）北神線の市営化

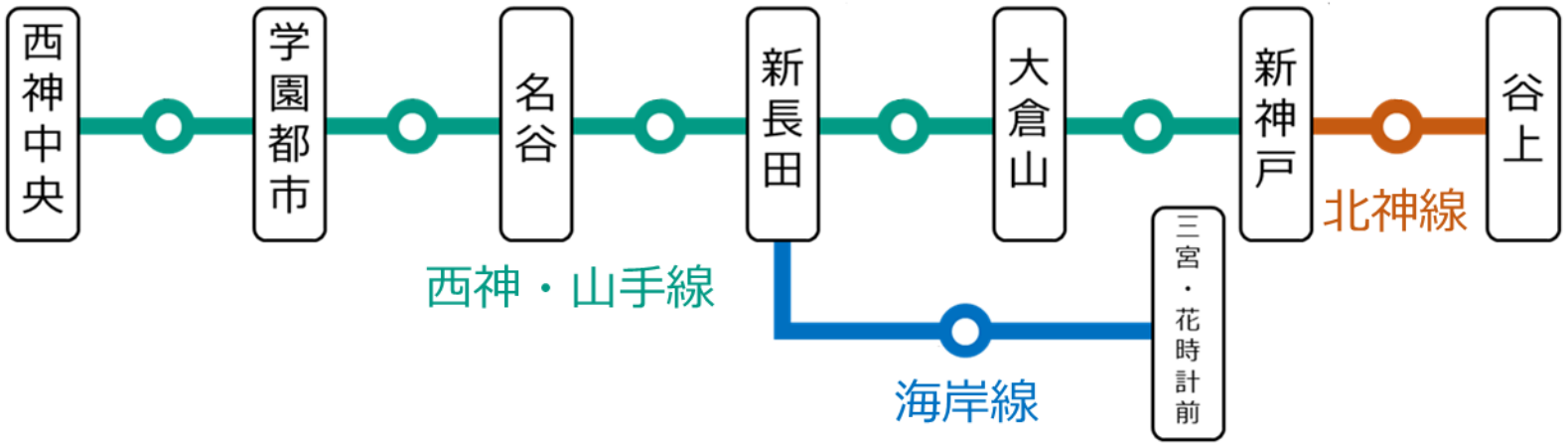
2020年6月1日、北神地区活性化を目的として、北神線を市営化。
現在の路線網（西神・山手線、北神線、海岸線）が完成しました。



市営化の記念ヘッドマーク



市営化初日に運転された記念列車



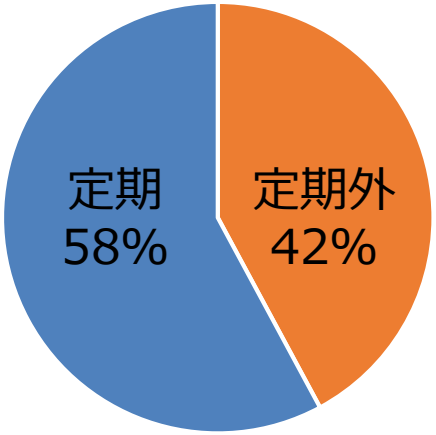
現在の神戸市営地下鉄路線図

神戸市営地下鉄の利用実態

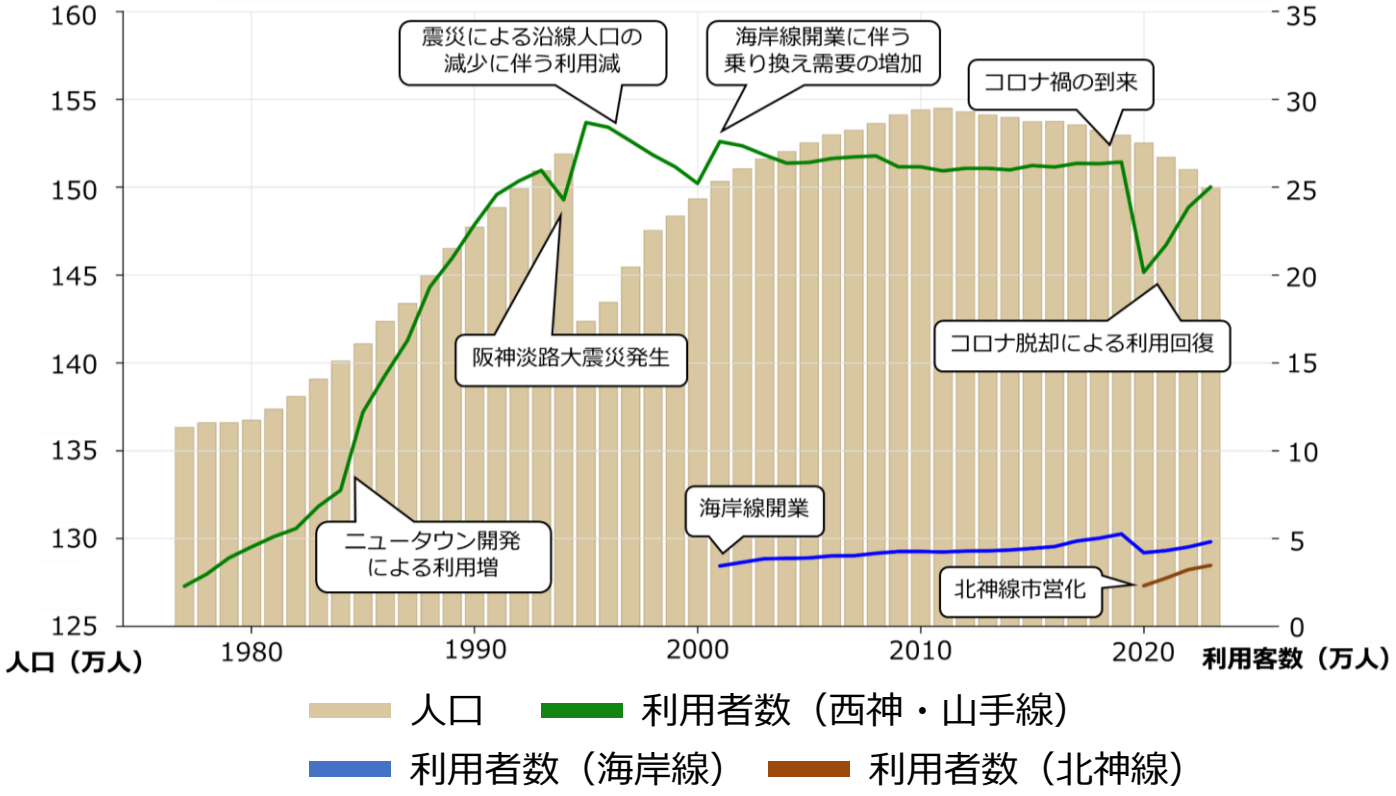
（１）利用実績と人口動向の関係

市営地下鉄は毎日、神戸市人口の約20%にあたる30万人超のお客様（2025年度実績）にご利用頂いており、みなさまの日常を支える大切な足となっています。
利用者の過半数は通勤・通学などの定期利用であり、人口の増減と地下鉄の利用者数が連動する構造となっております。

定期と定期外の利用割合



開業時からの神戸市人口と利用者数の推移



（２）定期外需要の課題

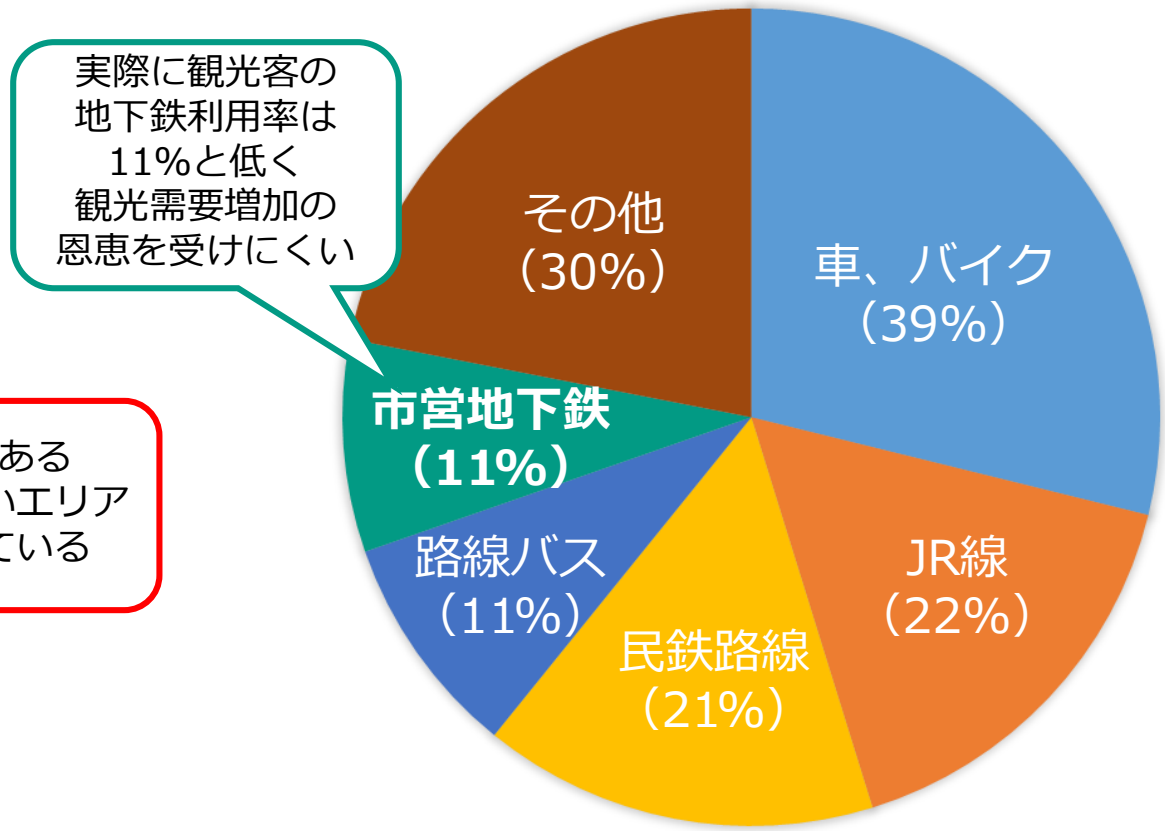
地下鉄沿線には観光エリアが少なく、市街地（三宮周辺）～神戸港の狭いエリアに密集しているため、観光客も移動に地下鉄を使うことが少ない傾向にあります。そのため、観光客や訪日外国人が増えても地下鉄の利用者は増えにくい状況にあり、人口減少で通勤・通学利用者が減った分を、観光客の利用で補うのが難しい収益構造になっています。

神戸市の主な観光エリアと訪問割合※

観光エリア	訪問割合
市街地（三宮周辺）	54%
神戸港	19%
六甲・摩耶	6%
有馬温泉	4%
須磨・舞子	8%
西北神	9%

集客力のある観光地が狭いエリアに密集している

神戸市内観光における主な交通手段の利用率※



※観光客は複数の観光エリアや交通手段を利用している場合があるため、構成比の合計が100%を超えている

神戸市営地下鉄が先駆的に導入してきた設備・サービス

神戸市営地下鉄は、安全・安心・快適な地下鉄サービス実現のため、
時代に先駆けて様々な設備やサービスを導入してきました。

（１）安全（事故を防ぎ安全・安定運行を実現）

・自動列車制御装置（ATC）の導入による安全性の向上
・自動列車運転装置（ATO）の導入による安定運行の実現（※１）
・車内のお客様と乗務員、指令員が通話可能な非常通報装置を整備

（２）安心（すべてのお客様に安心を提供）

・エコファミリー制度の導入による子育て世帯の外出支援（※２）
・終日女性専用車両を設置（※２）
・優先座席の色分けによる視認性の向上

（３）快適（快適で利用しやすい地下鉄を目指して）

・全車両に冷房を導入し、快適な車内環境の実現（※３）
・全駅へのバリアフリートイレ設置による利便性の向上
・ホームと車両の段差・隙間の解消

（※１）日本で２例目、開業時から現在まで継続している日本最古の現役ATO路線
（※２）日本初の設備・サービス
（※３）地下鉄車両として日本初の設備



ATC車内信号



女性専用車両ステッカー


バリアフリートイレ

➡　これからも安全・安心・快適なサービスの向上に取り組んでまいります。

これからの50年に向けて

Purpose 存在目的

いつも
移動に感動を

Mission 使命

関わるすべての人の
笑顔あふれる毎日をつくる
企業になります

移動を通して、
まちの発展に取り組み、
社会の成長につなげます

これらの理念・使命のもと、
今後も市民・お客様の足である地下鉄を持続的に運営します。

